

アフリカにおける 統合的湖沼流域管理 (ILBM) の拡大



TICAD6サイドイベント

第6回アフリカ開発会議
(TICAD6)サイドイベント
参加者数

63人

第16回世界湖沼会議
(インドネシア・バリ島)
参加者数

1,064人

活動の全体目標に
対する達成度

33%

課 題

アフリカの湖沼流域は様々な課題を抱えているが、これに対する現地政府の現在の取り組みには、湖沼の自然科学的特徴等に対する認識が反映されていないといった課題がある。

活動内容

湖沼環境の改善には包括的かつ継続的なアプローチが必要であり、これを実現するためには、統合的湖沼流域管理(組織・体制、政策、技術、参加、情報、財政という六つの要素を包括的に捉え湖沼流域のガバナンスを改善していく管理手法)が有効である。当財団はこれまでの活動を踏まえ、3年間で、シンポジウム等の開催やILBM推進の原動力となる人材育成等を通じ、アフリカにおけるILBM活動の展開を支援する。



第16回世界湖沼会議の様様

今後の課題

平成29年度、活動2年目においては、1年目で決定した活動計画推進のフォローアップを行うとともに、ILBM拡大の担い手となるステークホルダー向けの研修事業に着手する。

成果と工夫した ポイント



成果

活動1年目は、ケニアでシンポジウム等を開催することにより、湖沼保全、開発についてのケニアにおける国家戦略等にILBMが組み込まれ、湖沼の効率的・効果的な保全が進められる方法について議論し、合意した。

工夫

ケニア国政府、地方政府、現地NGO等、湖沼流域管理に関わる様々なステークホルダーとともに活動した。